

『ボランティア応援講座』

～ ボランティア・基礎編～

報告書

- 1 趣 旨 青少年教育施設における今日的な役割を理解し、青少年の体験活動を支援するボランティア活動に必要な基本的な知識や技能を習得する。また、研修を通して参加者同士の交流を図り、主体的・継続的に社会参画を目指すボランティアの育成をねらう。
- 2 主 催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立夜須高原青少年自然の家
- 3 共 催 福岡県立社会教育総合センター・福岡県立英彦山青年の家・福岡県立少年自然の家「玄海の家」
- 4 後 援 福岡県教育委員会
- 5 期 間 令和5年6月24日（土）～25日（日） 1泊2日
- 6 会 場 国立夜須高原青少年自然の家
〒838-0202 福岡県朝倉郡筑前町三箇山1103
- 7 対 象 主に高校生及び大学生等（社会人も可） 30名 程度
- 8 参加者 参加人数：13名
- 9 日 程 6月24日（土）

- 研修① 「仲間づくり」
講師 国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職 眞崎 亮
- 研修② 「青少年教育の理解」 ～青少年と体験活動の教育的意義～
講師 国立夜須高原青少年自然の家 次長 片山 貞実
- 研修③ 「青少年教育施設の現状と運営」
講師 福岡県立少年自然の家「玄海の家」 指導主事 中山 秀輝
- 研修④ 「KYT（危険予知トレーニング）」
講師 福岡県立社会教育総合センター 主任社会教育主事 八波 清彦
- 研修⑤ 「野外炊飯（カレーづくり）」
講師 国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職 眞崎 亮
音野 敬子
- 研修⑥ 「法人ボランティア登録制度とは」
発表者 国立夜須高原青少年自然の家 法人ボランティア 2名
講師 国立夜須高原青少年自然の家 事業推進係主任 原田 大志

6月25日（日）

- 研修⑦ 「安全管理（普通救命講習）」 講師 甘木・朝倉消防本部隊員
講師 甘木・朝倉消防本部隊員
- 研修⑧ 「ボランティア活動の意義」
講師 福岡県立英彦山青年の家 主任指導主事 沼田 英剛
- 研修⑨ 「青少年教育施設におけるボランティア活動」
講師 国立夜須高原青少年自然の家 企画指導専門職 眞崎 亮

10 活動の実際



11 感想

- アイスブレイクを通してみんなと仲良くなれて、それぞれの輪が一つの大きな輪になったと感じました。
- ボランティアについて考えることができたし、2日間だけだったけど、自分に自信がつき、自己肯定感が上がった。みんなと仲良くなれて、みんなの優しさ、思いやりを感じた。
- 法人ボランティアの説明では、実体験からのお話で、大変説得力があり興味をもった。
- 講義が多かったように感じるので、夜須高原のプログラムも一つ入れてほしい。

12 成果

- 仲間作りや講義の中にグループ学習を位置付けることにより、活発なボランティア同士の交流及びつながりの醸成を図ることができた。
- 自然の家職員及び県立3施設の職員で講義や実習を行うことにより、様々な視点から知識や技能を習得させることができた。
- 安全管理（普通救命講習）は、甘木・朝倉消防本部隊員に御指導いただいたことにより、最新の情報を取り入れたり、臨場感のある講義及び実習を体験したりすることができた。
- 本事業後、法人ボランティアの登録希望者が6名あった。後日実施される教育事業でのボランティア参加につなげていきたい。

13 課題

- 今後も、早い段階から各大学への挨拶や広報を行うことで、更に多くの新規ボランティア育成に向けて努めていきたい。
- 研修の多くが講義型であったため、今後はカリキュラムの内容に応じて、夜須高原の活動を取り入れた実習型の研修を考えていきたい。
- 今後は、法人ボランティア同士が積極的につながり、自主的に研修を重ね、法人ボランティアが自ら子どもたちのキャンプ等を自主企画していけるような体制づくりを目指したい。